

開講日	2017年春期 火曜日 18:30-20:00	講義場所	研究棟11階 講義室A
コースディレクター	名古屋市立大学大学院医学研究科 分子毒性学分野 教授 酒々井 眞澄		

科目概要および期待される成果	<p>【概要】疾病の原因・病態を理解して治療に結びつけることは医学の基本的な考えです。この考えにもとづき、本科目では代表的な疾患や症候(急性冠症候群、高血圧症、脂質異常症、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患、慢性胃炎、慢性肝炎、結核症、アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎、慢性疼痛、てんかん、認知症)を取り上げて専門家が原因から治療までをわかりやすく解説します。これらのなかには研究・新薬開発が急速に進んだ結果、治療効果が劇的に改善している疾患も含まれます。従来とはちがった視点からの治療が試みられているものもあります。私たちは受講者には修得した知識を医療活動や普段の生活に役立てていただきたいと思います。</p> <p>【期待される成果】受講生がめざす学習目標：(1)代表的な慢性疾患について原因、病態、治療法を具体的に説明できる、(2)治療法の進歩について具体的に説明できる、(3)修得した知識にもとづき治療・予防法をわかりやすく提案できる。</p>
目標とする資格	医師、歯科医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師、放射線技師、ケアマネージャー、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、社会福祉士、介護福祉士、行政職、教員、医療関係職など

サブカテゴリ	No	タイトル	講義概要	開講日	講師(所属)
L-1	1	認知症にならないために	アルツハイマー病を始めとした認知症は解決すべく社会問題の一つである。最近、認知症予防の疫学介入データが明らかになってきた。データをもとに認知症ならないために何が出来るかを考えてみたい。	4月11日	教授 松川則之 名古屋市立大学大学院医学研究科 神経内科学分野
L-2	2	アトピー性皮膚炎の最新の治療と将来への期待	アトピー性皮膚炎の治療は、あらたなガイドラインとともに、外用療法を中心とした治療方法が整理され、さらには、今後登場する新たな生物学的製剤や分子標的薬(内服・外用)が、さらに治療効果を高めるだろう。ガイドラインを中心に、開発が進む将来の薬剤についても、概説を行う。	4月18日	教授 森田明理 名古屋市立大学大学院医学研究科 加齢・環境皮膚科学分野
L-3	3	慢性肝炎の最新治療	肝硬変・肝がんへ移行するウイルス性肝疾患に対する治療の進歩は著しい。特に、C型肝炎はウイルス蛋白を直接ターゲットとした薬剤が開発され、治癒率が向上した。一方、B型肝炎は核酸アナログによるウイルス制御は可能となったが、未だ完全治癒は困難な状況であり、ワクチンによる予防が重要である。	4月25日	教授 田中靖人 名古屋市立大学大学院医学研究科 ウイルス学分野
L-4	4	アレルギー性鼻炎と花粉症	アレルギー性鼻炎や花粉症に悩んでいる患者さんは多く、アレルギー性鼻炎や花粉症は今や国民病とも言われています。そこで、本講義ではアレルギー性鼻炎と花粉症の原因・病態・治療法についてお話いたします	5月9日	教授 鈴木元彦 名古屋市立大学大学院医学研究科 高度医療教育研究センター
L-5	5	タバコ成人病COPDは治療できる病気です ～正しく理解して進行を防ぎましょう～	COPD(慢性閉塞性肺疾患)とは、有害な粒子やガスを長年吸入することで生じる肺の炎症性疾患で、長年喫煙を続けている中高年者に発症します。肺機能が低下し息切れが進行しますが、早期に禁煙すれば将来呼吸器症状に苦しむ可能性は低下します。また気管支拡張薬の吸入などで症状や病気の進行を緩和できます。治療・予防が可能な病気ですので、諦めずに専門医を受診して下さい。	5月16日	教授 新実彰男 名古屋市立大学大学院医学研究科 呼吸器・免疫アレルギー内科学分野
L-6	6	糖尿病の現状と治療法	近年、日本人の食の欧米化に伴い糖尿病患者数は増加の一途をたどっている。一方、新たな治療薬の登場もあり糖尿病の治療の選択肢は増えている。糖尿病の現状と治療法の進歩、発症予防の重要性について解説する。	5月23日	准教授 田中智洋 名古屋市立大学大学院研究科 消化器代謝内科学分野(代謝)
L-7	7	脂質異常症の現状と治療法	脂質異常症は動脈硬化性疾患の危険因子であり、その治療は冠動脈疾患や脳卒中の予防につながる。また治療困難な家族性高コレステロール血症に対し新たな治療薬が登場してきた。脂質異常症の現状と治療法の進歩、発症予防の重要性について解説する。	5月30日	准教授 今枝憲郎 名古屋市立大学大学院研究科 消化器代謝内科学分野(代謝)
L-8	8	てんかんの診断と治療	日本全体で患者数が100万人と言われる、コンメンディンズでてんかんの最新の診断方法と治療方針について解説します。	6月6日	教授 齋藤伸治 名古屋市立大学大学院医学研究科 新生児・小児医学分野
L-9	9	帯状疱疹後神経痛	帯状疱疹は非常に頻度の高い疾患で、ご自身、あるいは周りの家族に罹ったことがある人が必ずいると思います。激痛を伴い、10人に1人が慢性的帯状疱疹後神経痛へ移行すると言われています。その病態とリスクファクター、予防と治療などについて概説します。	6月13日	准教授 杉浦健之 名古屋市立大学大学院医学研究科 麻酔科学・集中治療医学分野
L-10	10	慢性疼痛の認知行動療法	認知行動療法は現在、最も有効性が科学的に示されている心理療法であり、うつ病などの精神疾患にとどまらず、機能性身体疾患にも適用される。本講では、慢性疼痛の認知行動療法の科学的メカニズムや臨床実践における有用性を解説する。	6月20日	助教 近藤真前 名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知・行動医学分野
L-11	11	運動器疾患の疼痛原因とその運動療法	運動器疾患は加齢とともに疼痛の原因となることはよく知られ日常生活へ多大な支障を及ぼす。よく知られている変形性膝関節症、椎間板ヘルニアの病態と近年概念がよく整理されてきた成人脊柱変形に起因する痛みを解説し、それらに対する運動療法も簡単に概説する	6月27日	准教授 水谷潤 名古屋市立大学大学院医学研究科 リハビリテーション医学分野
L-12	12	肺結核 一知ってますか?『結核』が、 現代の病気だってコト (平成28年度結核予防週間標語)	2015年の日本の結核新登録患者数は18,280人、罹患率も1.4であり、低蔓延国の水準には至っていません。また、最近の結核現場では、患者の高齢化など以前とは異なる課題にも直面しております。今回は、診断・治療だけではなく、現在の日本の結核事情についてもお話ししたいと思います。	7月4日	副院長/呼吸器内科主任部長 西尾昌之 社会医療法人宏潤会 大同病院
L-13	13	最新の高血圧診療一心不全を 予防する	心不全の発症予防の視点から、食塩感受性高血圧の病態、適切な降圧薬の選択、年齢・併存疾患別の降圧目標値などについて解説する。	7月11日	教授 大手信之 名古屋市立大学大学院医学研究科 心臓・腎高血圧内科学分野
L-14	14	急性冠症候群	急性冠症候群の疾患概念を再確認するとともに、脂質代謝を理解して急性冠症候群の発症予防に繋げる。	7月18日	教授 大手信之 名古屋市立大学大学院医学研究科 心臓・腎高血圧内科学分野
D-1	15	まとめと発表	これまでの講義の内容をもとに病態にもとづいた治療の方策を考えてグループで発表する。	7月25日	教授 酒々井眞澄 名古屋市立大学大学院医学研究科 分子毒性学分野